

2020年度

# 事業計画

自 2020年 4月 1日

至 2021年 3月31日

公益財団法人 正力厚生会

## 【活動方針】

### ◆がん患者支援事業のポイント

正力厚生会のがん患者助成事業は、①「がん患者団体への助成」②「医療機関への助成」③「読響ハートフルコンサート」を3本柱として進めている。

「がん患者団体への助成」では、患者団体の事業計画の内容を最も重視しつつ、資金に乏しい団体や、地方に活動拠点を置く患者会にも配慮して助成先を決定する。

「医療機関への助成」は、2019年度助成でスタートした国立がん研究センターの「がん情報ギフト連携プロジェクト」事業に助成する。併せて、帝京大学医学部などによる「がんの在宅療養支援プロジェクト」のウェブサイトの整備などにも助成を行う。

「読響ハートフルコンサート」は、地域バランスなどを踏まえたうえで、2020年度も全国の8医療機関で開催する。

### <患者会活動への支援>

#### 患者団体等への助成事業（継続）

全国のがん患者会、がん患者支援団体などで、資金不足からイベントやプロジェクト、研究などの実施が難しい団体を公募し、活動資金を助成する事業。2007年度から始まり、2020年度で14回目となる。これまで応募の少なかった中国・四国地方などへの案内を強化した結果、2020年度助成には過去最高の81団体（2019年度43団体）から応募があった。

1月23日の専門委員会で選考し、31団体への助成を内定した（同27団体）。事業の内容に応じて1団体に上限50万円を助成する。

### <医療機関への助成>

#### がん情報ギフト連携プロジェクト（継続）

図書館へがん情報の冊子セットを寄贈し、地域の拠点病院との連携を図って、図書館に正しいがん情報普及の窓口役を担ってもらう事業。一般からの寄付を基にした国立がん研究センターの「がん情報ギフト」事業の発展強化が狙いで、

2019年度助成を基に開始された。同センターへ500万円を助成する。

初年度は北海道をモデル地域として、道内2館だった冊子セットの配布図書館を34館まで増やした。2020年度は大阪など近畿圏を重点地域として、冊子セットを集中的に寄贈する。前年と同様、拠点病院の相談員と図書館の司書らによる研修会で両者の連携を深めてもらい、がん関連選書展や一般向け啓発イベントなどの開催につなげてもらう。

### がんの在宅療養支援プロジェクト（継続）

2012年度から2017年度にかけて助成した帝京大学医学部などの「がんの在宅療養支援プロジェクト」に、100万円を助成する。

アドバンス・ケア・プランニングへの関心が高まる中、月間5000件程度で推移していた同プロジェクトのサイトの閲覧数は現在、月4万件前後を維持している。2020年度は、これまでに開催したフォーラムや研修会の発表事例について、情報の更新と補足を行いつつ、欲しい情報にたどり着きやすいQ&A形式にサイトを再構成する。併せて、研修会やフォーラムの開催も継続する。

## <QOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上への助成>

### 読響ハートフルコンサート（継続）

がん患者や家族たちの心を癒すには音楽が有効と考え、2007年度から公益財団法人読売日本交響楽団のメンバーを病院に派遣して、待合室ロビーなどで弦楽四重奏を披露している。

2020年度の会場を公募した結果、全国20医療機関から応募があった。地域バランスなどを考慮し、1月23日の専門委員会で下記8会場を内定した。

前年度に続いて近接した2か所を一度に回る演奏日程を組み入れ、移動費縮減に努めた。評判の良いソプラノ歌手の参加も②と⑦の会場で実施する。

開催は2020年度末で累計96か所となる見込み。また、今後、諸般の事情で日程が変更となる場合がある。

①	新潟県立新発田病院	(2020年5月26日)	新潟県新発田市
②	筑波大学附属病院	(同 6月25日)	茨城県つくば市
③	長崎県島原病院	(同 7月21日)	長崎県島原市
④	相良病院	(同 7月22日)	鹿児島市
⑤	市立奈良病院	(同 9月24日)	奈良市
⑥	聖隷浜松病院	(同 9月26日)	浜松市
⑦	埼玉県立がんセンター	(同 10月23日)	埼玉県伊奈町
⑧	徳島大学病院	(同 12月10日)	徳島市